

令和7年度 冬季ミニサッカー大会（3年生，2年生，1年生）実施要項

1. 主催 船橋市サッカー協会 第4種委員会

2. 後援 船橋市 船橋市教育委員会

3. 目的 サッカーの試合を通じて少年少女の交流・親睦を図る。また、試合を通じてサッカーの技術の向上，指導者の審判技術，指導技術の向上を図る。

4. 期日	11／29	予選リーグ	予備日	11／30
	12／6	準決勝リーグ	予備日	12／7
	12／13	決勝トーナメント	予備日	12／14

5. 会場 市内小学校

6. 参加対象児童

大会当該学年未満の単独チームの参加は認めない。他学年にまたがる登録は認めない。

- | | |
|-----|---|
| 3年生 | (1) 船橋市サッカー協会第4種委員会に登録したチームに所属し，常時活動をしている3年生以下の児童
(2) 船橋市のサッカー協会第4種委員会に個人登録をすませていること |
| 2年生 | (1) 船橋市サッカー協会第4種委員会に登録したチームに所属し，常時活動をしている2年生以下の児童
(2) 船橋市のサッカー協会第4種委員会に個人登録をすませていること |
| 1年生 | (1) 船橋市サッカー協会第4種委員会に登録したチームに所属し，常時活動をしている1年生の児童
(2) 船橋市のサッカー協会第4種委員会に個人登録をすませていること |

7. 表彰 3位までのチームを表彰する。賞状 トロフィー メダル
優秀選手賞 参加各チーム2名

8. 大会ルール 別紙（試合成立人数は5名とする。）

9. 組み合わせ・大会方法

- (1) 市内を均等に3年生は4ブロック，2年生は3ブロック，1年生は2ブロックに分け予選リーグ，準決勝トーナメント 決勝トーナメントを行う。
- (2) 複数チーム参加可 複数チームエントリーしたチーム間のメンバー変更は3名までとする。
- (3) 会議時間短縮のため，競技部が責任抽選をし，会議に提案するものとする。

ミニサッカー競技規則

日本サッカー協会フットサル競技規則を参考に競技規則を作成している。(注意・変更・追加事項について以下に記載する。)

(1) ピッチ

- 大きさ ・長さ 30～40m ・幅 20～25m
- コーナーアークは半径25cmの四分円を描く。
- ゴールポストの中央から6mでペナルティーエリアのライン上にペナルティーマークを描く。
- 第2ペナルティーマークは描かない。
- ゴールはポストの間隔が3m、クロスバーの下端からグラウンドまでの距離は2mの条件を満たし、安全に配慮し設置する。
- 交代ゾーンはハーフウェーラインから3m離れたところに、フィールドの外側にタッチラインと直角のマークをつける。このマークはタッチラインから離さずに直角に40cmの長さで描く。このマークとマークの間が交代ゾーンである。

(2) ボール ・サッカー4号球を使用する。

(3) 競技者の数

- 試合は5人の競技者からなる2つのチームによって行われる。試合開始時に、いずれかのチームが5人未満の場合は試合を開始しない(5人未満のチームは不戦敗)。ただし、退場によって競技者が5人未満となった場合は試合を続けさせる(退場により競技者が3人未満となった場合は不戦敗)。また、5人の競技者しかいないチームの1人が試合中に負傷した場合、復帰できそうであれば試合を止めて復帰するまで待つ。復帰できない場合も続行する。
- 交代要員の数に制限は設けない。
- フィールド競技者の交代は、ボールがインプレーまたはアウトオブプレー中に行われる。ゴールキーパーの交代は主審に通告後、試合の停止中に行われるものとする。また、交代した競技者は、その試合に再び、何回でも出場することができる。

(4) 競技者の用具

- ユニホームは正副2着用意を原則とするが、できない場合はビブスでも可とする。
- **ビブスで大会に参加する場合は、番号入りのビブスを用意する。**
- フィールド競技者がゴールキーパーと入れ替わる場合、競技者が着用するゴールキーパーのジャージにはその競技者自身の番号か自チームで使われていない番号を付けなければならない。
- 靴はスパイクでも可とする。

(5) 審判

- 第1審判、第2審判によるサイドライン方式とする。第2審判も笛を使用することができる。
- 第1審判と第2審判は、ともに競技者に警告、および退場を命ずることができる。しかし、両者の間に不一致があった場合、第1審判の決定が優先されるものとする。
- 第1審判はタイムキーパーを務める。(タイムキーパー及び第3審判は置かない)
- 第1審判はベンチと反対側、第2審判はベンチ側のサイドを担当する。

(6) 試合時間

・予選リーグ、準決勝・決勝トーナメント(前半10分ー5分ー10分)で行う。

- タイムアウトはなし。延長戦は行わない。

(7) プレーの開始および再開

- キックオフの仕方は8人制・11人制競技規則と同様とする。しかし、キックオフから直接得点することはできない。(キックオフシュートが決まっても得点にならず、ゴールクリアランスで再開する)
- 自分のペナルティーエリア内で与えられた守備側チームのフリーキックは、ペナルティーエリア内の任意の

地点から行う。

- ・相手チームのペナルティーエリア内で与えられた攻撃側チームの間接フリーキックは、違反の起きた地点に最も近いペナルティーエリアライン上から行う。
- ・ペナルティーエリア内でプレーを一時的に停止したあとに試合を再開するドロップボールは、プレーを停止したときにボールのあった地点に最も近いペナルティーエリアのライン上で行う。

(8) ボールのインプレーおよびアウトオブプレー

《アウトオブプレー》

ボールは次のときにアウトオブプレーになる。

- ・地上、空中を問わず、ボールがゴールライン、またはタッチラインを完全に越えた。
- ・主審が試合を停止した。

《ボールのインプレー》

アウトオブプレー以外のすべての時間は、次の場合を含めてボールはインプレーである。

- ・ボールがゴールポスト、クロスバーからはねかえってピッチ内にある。

(9) 得点の方法

競技規則に別に規定されている場合を除いて、両ゴールポストの間とクロスバー下でボールの全体がゴールラインを越えたとき、ゴールにボールを入れたチームが反則を行っていなければ1得点とする。ただし、ゴールキーパーを含む攻撃側の競技者が、相手のゴールにボールを直接投げ入れた場合、ゴールキックが与えられる。

(10) ファウルと不正行為、フリーキック

- ・スライディングタックルは禁止とする（ボールを競ろうとしてのスライディングは、ゴールキーパー、フィールドプレーヤーに関わらず禁止とする）。これに違反した場合は、相手チームに直接フリーキックを与える。ただし、自分のペナルティーエリア内のゴールキーパーに関しては、不用意に、無謀に、あるいは過剰な力で行っていない手からのスライディングは認められる（足からのスライディングタックルはPKとなる）。
- ・累積ファウルは適用しない。
- ・味方競技者によって意図的に、ゴールキーパーにキックされたボール（キックインを含む）はいつでも、何度でも受けることができるが、自陣のペナルティーエリア内において手で扱った場合（バックパス）は間接フリーキックを相手チームに与える。
- ・ゴールキーパーがボールを手から離すまでに、ボールを手でコントロールしている間に4秒を超えた場合、間接フリーキックを相手チームに与える。
- ・退場を命じられた競技者の補充のために交代要員が試合に入ることはできない。警告、退場は次の試合には持ち越さない。
- ・フリーキックに対し、相手競技者は、ボールがインプレーとなるまでボールから少なくとも5m離れる。

(11) ペナルティーキック

- ・キッカー以外はピッチ内で、ペナルティーエリアから出るとともに、ペナルティーマークから5m以上離れ、ペナルティーマークの後方に位置する。

(12) キックイン

- ・キックインから直接得点できない（間接フリーキック扱い）。
- ・守備側チームの競技者は、キックインを行う地点から5m以上離れる。
- ・ボールは、蹴られるか触れた後、ただちにインプレーとなる（キックインをして始めからアウトボールになってしまった場合、やり直しではなく、相手チームのキックイン）。
- ・ボールはライン上に置き、キッカーの足の位置はピッチ内外のどこに置いてよい。

(13) ゴールクリアランス（サッカーでいうゴールキックの代わりに行うキーパースローのこと）

- ・ゴールキーパーがゴールクリアランスを行う。

- ・ボールがノーバウンドでハーフウェーラインを越えてはいけない。越えた場合はボールが通過したハーフウェーライン上から相手チームに間接フリーキックを与える。
 - ・投げるときに手からボールが離れる前に、ペナルティーエリアからボールが出た場合はハンドリングの反則ではなく、キーパースローのやり直しを行う。(インプレー中はハンドリングとなる。)
- (※)ゴールキーパーのプレーで、インプレー中に相手ボールを保持したときは、スローイン、パントキック(ノーバウンドでボールを蹴る)はいずれもノーバウンドでハーフウェーラインを越えてはいけない。越えた場合はボールが通過したハーフウェーライン上から相手チームに間接フリーキックを与える。ドロップキック(ワンバウンド以上でボールを蹴る)はハーフウェーラインを越えてもよい。
- ・味方競技者はペナルティーエリア内でボールを受けてもよい。ボールが明らかに動いたときにインプレーとなる。相手競技者はインプレーになるまでペナルティーエリアの外側で待つ。インプレーになる前に相手競技者がペナルティーエリア内に入った場合は、ゴールクリアランスのやり直しを行う。

(14) コーナーキック

- ・タッチラインとゴールラインの交差する点上に置いて蹴る。相手競技者はボールから5m以上離れる。

(15) 4秒ルール

- ・ボールを保持してから(キックの場合はボールを置いてから)4秒以内にキックイン、フリーキック、コーナーキック、ゴールクリアランスを行わないとき、相手チームに間接フリーキックを与える。

《大会規定》

- ・ 不戦勝・・・勝ち点3 得点6 不戦敗・・・勝ち点0 失点6
- ・ 複数チームをエントリーした場合のチーム間の登録交代、変更は3名まで可とする。
- ・ 選手の登録人数は自由とする。

順位の決定

- ・ 同じ勝ち点の場合は、①得失点差②総得点③対戦結果④PK戦により決定する。
- ・ ④PKの場合は1回PK戦をやって決着がつかない場合は決まるまでPK戦を繰り返す。
- ・ 決勝トーナメントで引き分けの場合は、3人ずつによるPK戦を行う。(以下サドンデス)

大会共通留意事項

- 会場校は、割り当てられた会場の日程がおさえられない場合、他のチームに交渉し結果を競技部長に会議7日前までに連絡する。
- 荒天により大会実施を見合わせる場合は、AM6：30に判断し、協会のホームページの掲示板で連絡する。電話で問い合わせる場合は、競技部長に連絡を入れる。
- 各チームの責任者は選手のマナー、応援のマナー（保護者）、指導者の在り方について指導しておく。また、応援に来る方が近隣施設に駐車したりや路上駐車したりすることがないように指導する。
- 会場設営の手伝いについて、会場責任者より連絡があった場合は協力をする。
- 09：00キックオフの大会において、会場には7：45以降に入場を厳守すること。**
- 平成25年度より学校敷地内すべて禁煙となっている。会場校に迷惑にならないようにマナーの徹底を図る。
また、会場周辺の禁煙を心がける。
- 会場に迷惑がかからないよう選手に指導する。（ゴミ・花壇に入らない等）
- 1チーム2名以上の審判を帯同していること（**ミニサッカー大会は1名以上の帯同**）。審判服は黒を着用のこと。
- 帯同審判は、審判IDカードを会場責任者に提示して、資格取得者であることの確認をうける。忘れた場合は、その日の試合が終わるまでに取りに帰り、会場責任者に提示する。提示できない場合は、その日の対戦をすべて不戦敗（0-6で負け）扱いとする。ただし、試合結果が（0-6）よりも相手チームに有利になる場合は、試合の結果を採用する。
（スマートフォン等の不具合でIDが提示できない場合も含む）
- 帯同審判は、千葉県で取得した審判IDカードを提示しなければならない。他県で取得した場合、千葉県サッカー協会に第2登録を行う必要があり、その際に発行される許可証を他県で取得したIDカードとともに提示しなければならないので必ず行うこと。第2登録を行っていない他県の審判IDのみの提示の場合、帯同審判とみなさず、試合での審判は行えないため、審判ID未提示と同じ処分とする。
- 各チームは自チームの第1試合開始30分前までに、本部でエントリーチェックを受ける。その際、選手登録証とプログラムでチェックを受ける（市民大会は選手登録証での確認はせず、プログラムのみで行う）。
また、指導者1名がその場に立ち会うものとする。
- 各ブロックで勝ち上がったチームは、報告書をまとめて次の会場責任者に提出する。
- チームが棄権した場合でも、責任を持って割り当ての審判を行う。
- 怪我については、チームの責任において対処する。ただし、救急車が必要な場合など、会場責任者にその旨を確認し、会場責任者とともにその対処にあたる。救急車を呼ぶような怪我の場合には、会場責任者から競技部長に報告を行う。
- ベンチに入れる指導者（監督・コーチ）は3名までとする。指導者がベンチ退席を審判に命じられた場合、次の1試合ベンチに入り、指示できない。
- ベンチへの各チームによる簡易テントの設営は安全に十分に注意し、設置してもよい。ただし、会場責任者の許可を得て行うこと。
- 雷が鳴ったらすみやかに審判は時計を止め、試合及びアップを中断させる。試合再開については大会役員と相談して決定する。（県からの通達）
- 選手のメンバー追加・変更の受け付けは、自チームの予選第1試合30分前とし、それ以後は受け付けない。（大会途中からの変更はできない）
- 閉会式は決勝会場で行う。（進行は競技部が行う。）

ミニサッカーフィールドレイアウト

